

文化・芸術

「黒い花」

1940年2月、油彩、板
92・0cm×65・0cm
(東京国立近代美術館蔵)

松本竣介 (1912～48年)

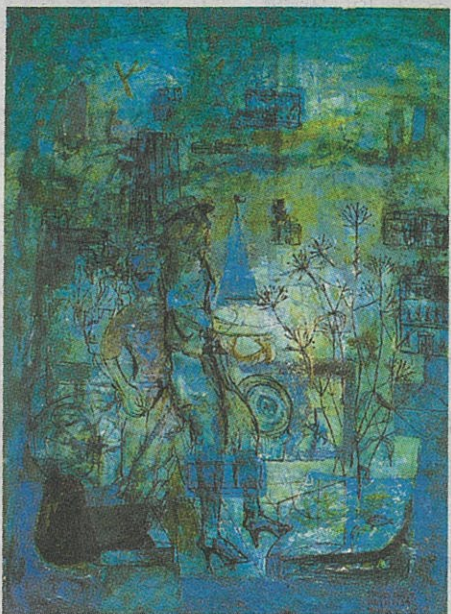
自身の美学を画面に展開させようとするこの時代の松本竣介の感性と意欲とがそのまま表出しています。ある種の生々しささえ感じられます。

1940年2月の制作ですが「黒い花」は、同年9月に同要素がちりばめられた赤紫色の画面の作品を完成させ、さらに12月には同題の短い文章表現も発表しています。

建物、街を行き交う人々の周縁には、植物や魚、不思議なカーブ、車輪のような動きなどが点在して、それぞれのモチーフが時折、二重構造の風合いを醸しているようです。そのなかに唐突で奇妙な奥行きなどが登場する不思議な魅力を放つ一点です。

竣介のアトリエ内の900冊におよぶ蔵書には、西洋を問わず多くの詩集もありました。また、本作制作時の40年の出版本をその蔵書中に見つけてみれば、50冊ほどが存在します。もちろん古本も多いわけではありませんが。読書家で愛書家であった竣介の美に対する感覚、あるいは作品が生まれた時代背景の側面をその蔵書の内容から読み解いてみることもできるのかもしれない。(小此木)

※9日午後3時～同5時に記念シンポジウム「竣介のアトリエ再見プロジェクト」が開催されます。



名画の扉

大川美術館企画展から